

井 茂 圭 洞

「雪中梅」 「種田山頭火歌書(この道しかない はるのゆきふる)」

たとえ一本の書線であっても、その表現技法によって、線の周辺に、ある種の力を感じることがある。例えば磁石のまわりに生じる磁力のようなもので、これを線の「響き」と呼ぶ。井茂圭洞の作品「雪中梅」も、例えば二行目の「し」の字は、左右に広い空間(余白)がとられているが、線の響きが高いため、その空間は非常に充実したものとして眼に映る。「種田山頭火歌書」においても、「この道しかない」の字と右下の余白とのコントラストが印象的である。

このように、井茂圭洞は「響き」の感覚に鋭敏で、書線の「黒」と、その周辺の余白の「白」のバランスが絶妙である。「雪中梅」においては、「し」の字の左右の余白だけでなく、上下左右、特に左上部には広い余白が存在している。その余白は、決して不要な余った空間ではなく、この作品には必要不可欠な造形空間であると感じられ、切り取る事を許さない、大切な構成部分なのである。これを本人は「要白」と呼ぶが、その余白を形成しているのが、井茂の書線の「響き」の高さである。しかし、このような響きの高い書線は、一朝一夕で身につくものではない。井茂も高い書線を手にするために、修練を重ねた事であろうし、その修練を今も続けているに違いない。

また、井茂圭洞は平成 28(2016)年には日本最大の総合美術展覧会である日展の副理事長(書道分野からの副理事長選任は初めて)、令和3(2021)年には「日本書道文化協会」初代会長に就任した他、平成 25(2013)年には、「日本かな文化」のユネスコ無形文化遺産登録を提唱し、平成 27 年には「日本書道ユネスコ登録推進協議会」副会長に就任するなど、書道の伝統的な技・書法の保存・継承・発展に多大な貢献をしている。

このような書作への姿勢と、持って生まれた天賦の才が相俟って、井茂圭洞は、日本文化の向上発展に関し、功績顕著な者として認められ、平成 30 年に文化功労者に選定された。さらにこの度、令和5(2023)年には文化勲章受章の栄に浴している。

井 茂 圭 洞 略年譜

- 昭和 11(1936)年 兵庫県神戸市に生まれる(本名 雅吉)
- 昭和 29(1954)年 深山龍洞に師事
- 昭和 36(1961)年 京都学芸大学美術科卒業
日展初入選
- 昭和 48(1973)年 毎日書道展 毎日準大賞受賞
- 昭和 50(1975)年 第1回個展開催(於：京都龍枝堂ギャラリー)
- 昭和 52(1977)年 京都教育大学美術科助教授就任
- 昭和 59(1984)年 日展審査員就任(以降、8回就任)
- 昭和 62(1987)年 作品集『六甲帖』刊行
- 平成 元(1989)年 兵庫県文化賞受賞
- 平成 3(1991)年 一東書道会会長就任
京都教育大学美術科教授就任
- 平成 5(1993)年 日展会員賞受賞
- 平成 6(1994)年 京都教育大学美術科退職
- 平成 7(1995)年 京都教育大学名誉教授就任
- 平成 10(1998)年 神戸市文化賞受賞
- 平成 13(2001)年 「現代書道20人展」初出品(以降、現在まで)
日展内閣総理大臣賞受賞、文部科学省「地域文化功労者」顕彰
- 平成 15(2003)年 日本芸術院賞受賞
- 平成 17(2005)年 日展常務理事就任
神戸新聞平和賞受賞、内閣総理大臣官邸 作品展示
- 平成 24(2012)年 日本芸術院会員就任
- 平成 28(2016)年 日展副理事長就任
- 平成 29(2017)年 紺綬褒章受賞
- 平成 30(2018)年 「文化功労者」として顕彰
- 令和 3(2021)年 「日本書道文化協会」初代会長就任
- 令和 4(2022)年 『かなの美韻「白梅帖」』刊行
- 令和 5(2023)年 文化勲章受賞